



【ストックホルム共同】リチウムイオン電池の開発でノーベル化学賞に決まった旭化成の吉野彰名誉フェロー(71)が8日、ストックホルム大の講堂で受賞記念講演をした。環境や経済、便利な生活のバランスがとれた将来の持続可能な社会づくりに「リチウムイオン電池が中心的な役割を果たす」と話した。

タイトルは「リチウムイオン電池の開発経緯とこれから」。冒頭「(大学では)興奮した」と切り出した。

「(ストックホルム共同)企業研究者の私が受賞したことに日本中が大変興奮した」と切り出した。

ストックホルム大で受賞記念講演をする吉野彰・旭化成名誉フェロー＝8日、ストックホルム(共同)

ノーベル賞 吉野さん

「リチウムイオン電池が役割」

将来の持続可能な社会目指し

受賞記念講演

吉野氏は、蓄電池を積んだ電気自動車(EV)が普及した未来社会の構想を動画で紹介。人工知能(AI)による自動運転を組み合わせた自動運転を組み合わせた車。車をみんなで共有すれば手近な空車を呼んで使うことができ、個人の費用負担も抑えられるとした。

太陽光や風力など再生可能エネルギーでつくった電気を街のステーションでEVに供給し、発電が不安定な時はEVから家庭などに電気を供給することも可能と説明。「技術革新により、持続可能な社会は近い将来、実現できる」と展望した。

講演では、生い立ちから

電池ができるまでの流れも紹介。小学校のころ、英国の科学者フアラデーの著書「ロウソクの科学」を読み、化学に興味を持ったという。

京大を経て旭化成に入社からは、白川英樹筑波大名誉教授(83)が発見した電気を流せるプラスチックを使って電池の開発を開始。最後は負極に炭素材料を使って基本構成を決めたことや、実験で試作品を破壊しても炎上せず、安全で実用化が可能だと確信したとのエピソードも語った。

講演は10日の授賞式などと並ぶ公式行事の一つ。吉野氏は「自分にとってのメインイベントだ」と話していた。

名前【 】

① 今年、旭化成の吉野彰名誉フェローは何を受賞しますか。

② 吉野さんが開発したものは何ですか？

③ 吉野さんが小学生のころ読んで科学に興味を持つきっかけとなった本の名前は何かですか。

④ 吉野さんがストックホルム大での受賞記念講演で、リチウムイオン電池がどんなことに「中心的な役割を果たす」と話しましたか。